

# 伊香保温泉 450年前にプランニングされた温泉保養都市

## まちあるきの考古学



伊香保温泉では石段の街並みを見ることができます。

365段といわれる石段の通り沿いには、温泉旅館だけでなく、土産物店、飲食店、射的場などが軒を連ねています。夜になると温泉客は浴衣姿で石段を上り下りし、散策や射的を楽しみながら温泉街の雰囲気に入ります。

石段通りがあることで、伊香保は温泉街らしい温泉街になっています。

石段の地下には源泉が流れています。「黄金の湯」とよばれる鉄分を豊富に含む茶褐色の湯は、石段の奥の谷筋にある源泉から導湯され、石段を流れ落ちながら左右の湯殿に分湯されています。

戦国時代、長篠の戦の負傷者治療のために武田勝頼が造らせたのが、石段による分湯システムの起源とされています。限られた源泉を効率的に利用するための仕組みでした。

450年前の源泉分湯の仕組みが、現在の伊香保温泉の街並みを創り出したのです。



夜の石段通り 射的店の人だかり

黄金の湯の管理は「小間口権利者組合」が行っています。

源泉の流れる石段下の「大堰」から源泉所有者(旅館)へ分湯するための湯口(分岐口)を「小間口」とよび、源泉所有者それぞれの権利分(湯量)は「小間口」の大きさにより定められています。

小間口権利者(源泉所有者)とは、「小間口」から引湯する権利を有している「大家」とよばれる旅館のことで、戦国の世から続く温泉利用の権利を守るのが、小間口権利者組合です。

戦後、東側に新たな温泉街が開かれ、いまでは伊香保には50軒前後の温泉旅館があります。そのうち黄金の湯を使用しているのは約半分といわれ、大家から源泉を買っているようです。



上流谷筋にある源泉



石段通りは尾根筋にあり、その最上段には伊香保神社が鎮座しています。源泉は、石段横の谷筋に沿って500m奥の沢にあり、そこから導湯して、伊香保神社の足元から石段を流れ落ち左右に分湯しています。

450年前に計画された温泉保養都市 伊香保 はとても機能的にできているのです。

日本初の温泉街の都市計画といえます。



この中を源泉が流れ落ちる